



桐生倶楽部会報

『高校生が描く桐生倶楽部会館 100歳の姿展～自由テーマ画とともに～』

ご挨拶

桐生倶楽部 理事長 森 壽作

桐生倶楽部会館が今年の12月に創建100年を迎えました。この記念すべき時に、桐高・桐女の美術部の生徒さんが桐生倶楽部会館をテーマに絵画作品の作成に取り組んで頂くことになりました。6月には、その成果の絵画作品を一般市民に展覧会として公開するという桐生倶楽部の企画が、美術部顧問の原澤和彦先生、又、桐生高等学校、桐生女子高等学校両校のご了解のもとに実現することになりました。その絵画合同展を大変楽しみにしていましたが、今回の予想外の新型コロナウイルス感染拡大発生により、合同展が開催出来なくなってしまいました。本当に残念でした。

しかし、その後web上での展覧会が可能ということになり、ほっとしたところです。本来の合同展は別途、年度内に実現できるよう準備して行ければと思っています。何卒、宜しく願います。尚、本企画は村田勝俊理事が担当しましたことを報告します。

昔話になりますが、桐生倶楽部会館創建当時の100年前の大正8年（1919年）は前の年から、今年の新型コロナウイルスのように、「スペイン風邪」が猛威を振るっていたことを改めて、知りました。日本でも大きな影響がありましたが、当時は電子顕微鏡もなく、ウイルスのことはまだ知られていませんでしたが、今と同じような対策が取られました。人ごみに出ない、マスク着用する、手を消毒する、うがいの励行、身体弱者はとりわけ注意することなどが指導されていました。こんな大変な体験をしていたのにすっかり忘れてしまっていたのは私だけでしょうか。昔の私たちの先輩たちがそんな大変な時に桐生倶楽部会館を創建した偉業に、唯々、敬意を表するばかりです。

ご挨拶

桐高・桐女美術部顧問 原澤和彦

昨年末に、桐生倶楽部理事長の森様と理事の村田様より、同倶楽部会館創建百年を記念した、桐高美術部と桐女美術部による倶楽部会館での展覧会のお話をいただき、光栄なこととしてお引き受けさせていただいた次第です。具体的には、大正時代に建造されたスパニッシュ様式の桐生倶楽部会館をモチーフにした作品を中心に据えた展覧会というものです。顧問としては、日頃より観察力と表現力や造形力の涵養を指導方針としているため、実際のスケッチを元にタブローを制作するという正攻法の作品づくりするには格好の機会と考えました。描きたい対象を写真に撮り、それをもとに制作するという手法をとるプロも多い昨今ですが、2次元の画像をそのまま2次元の絵画にすることに比べ、3次元のものを実際に観察して2次元に落とし込む作業の方が、遙かに高度で創造的な作業であることは言うまでもありません。そこで、まずは今年の12月の冬期休業中に同会館で三日間のスケッチ会を実施し、桐生タイムス紙にも取材・報道していただきました。スケッチ会の初日には、会長の森様と理事の村田様より桐生倶楽部と会館の持つ歴史や存在意義についてご丁寧なご説明もいただき、生徒達は目には見えないものを意識しながらスケッチに取りかかることができたのではないかと考えております。

しかし、残念なことに桐生倶楽部様から展覧会に向けて画材購入の予算も付けていただきながら、タブローの制作に入るこれからという時に新型コロナウイルスにより学校での部活動が3ヶ月以上ストップしてしまいました。顧問としては大変申し訳なく思っております。そんな折、理事の村田様にご相談しましたところ、展

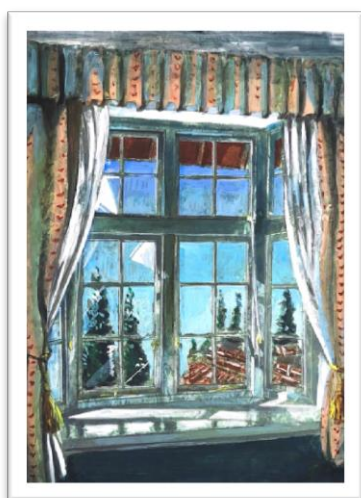
示できる作品をもとに web 上での展覧会を開催できないかとお話をいただき、今回の web 展覧会開催に漕ぎ着けることができました。作品的には、両校の2・3年生のスケッチまたはエスキース等ですが、ご高覧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

尚、学校も6月下旬より完全に再開したため、予定していた桐生倶楽部での桐高・桐女美術部による合同展の年度内開催に向け、7月より1年生を加えテーブルの制作に入っていきたいと思っております。



桐高3年 濱名美叶
「桐生倶楽部スケッチ1」

当時の様式の窓の特徴をカーテンとともに内側から捉えてみました。



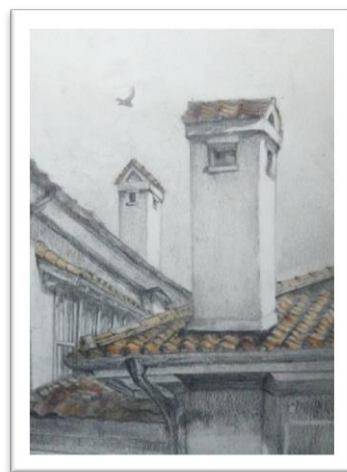
桐高3年 濱名美叶
「光」

綺麗な窓から差し込む光がとても印象的だったので、その美しさを描きました。また、爽やかな感じがしたので青みを強くしました。



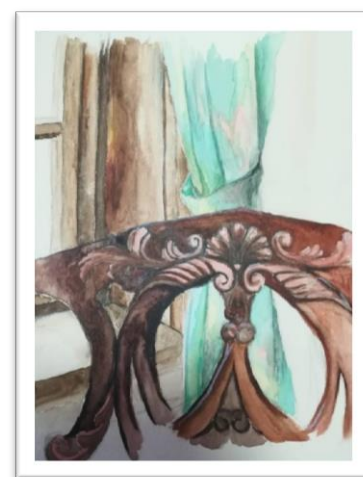
桐高3年 濱名美叶
「桐生倶楽部スケッチ2」

スパニッシュ様式の建物の特徴を窓と壁と瓦屋根をモチーフに捉えてみました。



桐高3年 熊谷美彩
「屋根」

なかなか見ない形の瓦に興味を持ち、描きました。描いていたときにトンビのような鳥がとんでいたの、トンビも絵に入れました。



桐高3年 松永英み
「窓辺」

窓から差し込む光と、椅子の模様が綺麗だなと思ったので描きました。



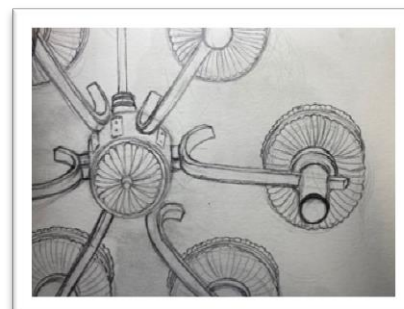
桐女3年 仁居舎ゆうか
「桐生倶楽部スケッチ1 裏門の扉の絵」

青い扉が印象的で、映画の撮影にもよく使われていると聞いたので描こうと思いました。100年も昔の建物とは思えないほど造りがおしゃやれで、特にこの青い扉は綺麗だったので惹かれました。色を塗る時も青が印象深かったので全体的に青を入れて仕上げました。

桐女3年 仁居舎ゆうか
「桐生倶楽部スケッチ2

シャンデリアの絵」

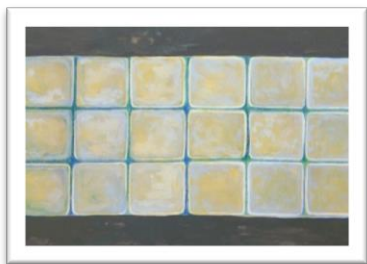
天井を見上げると綺麗なシャンデリアが下がっていて、思わず描きたいなと思いました。よく見るとデザインが細かく、シャンデリアも描いたことがなかったのでスケッチをするのが大変でした。





桐女3年 中根叶夏
「扉」

今回、桐生倶楽部の建物をデッサンさせて頂きまして本当にありがとうございました。建物の様々な質感を線で表現することが出来て楽しかったです。絵を通じて私の感じたことを伝えることが出来たら嬉しいです。



桐女3年 後藤彩乃
「翠緑タイル」

桐生倶楽部会館の一室に置かれていた暖炉の、つやつや光る緑タイルの装飾がとても美しく目を奪われました。ぷっくりと可愛らしい質感と空を反射した水色を意識して描いております。



桐女3年 芳賀芽衣
「緑と赤」

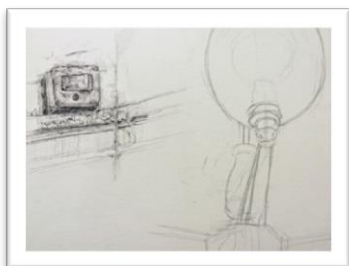
桐生倶楽部をスケッチした際に、面白い形だと思っていた緑色の窓(縁)と外壁の煉瓦の部分を描きました。色を沢山使う塗り方が好きなので今回も何色も使って描きました。



桐女3年 茂木陽野
「カーテンタッセル」
紫色のカーテンタッセルの中に、色々な色が混ざりあっている美しさを表現することが、一番大変でした。

桐女3年 仁居舎ゆうか
「桐生倶楽部スケッチ3
ランプの絵」

暖炉の両側にこのランプが壁に取り付けられていて、今の時代だと、このようなランプを見ることは珍しいので描こうと思いました。ランプのカバーの曲線やランプを繋げている金属部分の形を捉えて描くのが難しかったです。



桐女3年 中根叶夏
「じゃんけん」

多くの人が触ったであろうスイッチや、多くの人を照らしてきた照明に興味を持ちました。



桐女3年 柿沼乃愛
「扉」

扉の絵は、色を作るのが難しかったです。全体が見えていないので、色だけで表現するのが大変でした。

桐女3年 後藤彩乃
「みつごまど」

近代の家屋ではあまり見かけない三連の窓が三つ子みたいで愛らしいと思いました。パステルカラーを用いてポップな雰囲気を目指しています。



桐女3年 山本多恵
「窓」

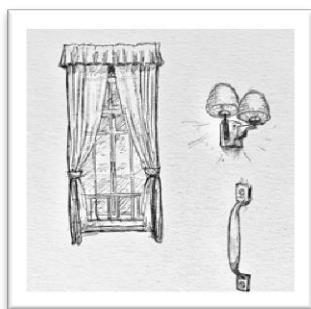
桐生倶楽部のレトロな窓が素敵だと思い描かせて頂きました。パステルカラーを使い全体的にまとまりを出しました。レースカーテンの透け感がお気に入りです。



桐女3年 中根叶夏
「桐生倶楽部玄関スケッチ」
100年の間にいったい何人が通り抜けたのだろうかと思いつきながら描きました。



桐女2年 西那奈子
「桐生倶楽部」
建物の中から外が見えるドアに惹かれました。ペンで細かく表現するのは凄く難しかったです。



桐女3年 山本多恵
「桐生倶楽部」
スケッチ内観
桐生倶楽部のレトロな窓や照明
に興味を持ちスケッチしました。

桐女3年 山本多恵
「桐生倶楽部」
スケッチ外観
スパニッシュ様式の外観
の一部を切り取ったかたち
でスケッチしました



桐女子3年 斎藤風花
「窓」
窓が魅力的に見えました。



桐女子2年 竹田知沙
「ひかり」
中の明かりを描こうと思っ
たら、スケッチした日は昼な
のに夜みたいになってしまっ
た。



桐女2年 福田はな
「生活の窓」
この作品は、窓から生活感
が感じられるようにしま
した。

だ場所で静かに真剣に集中して描いたことの賜物です。

まずはご指導いただいた原澤和彦先生と桐高美術部と桐女芸術部美術班の生徒さんたちに心から感謝申し上げます。桐生倶楽部会館をモチーフにした作品では小屋根を付けた煙突、扉や窓、タイルや玄関、シャンデリアなど桐生倶楽部の個性やスパニッシュ・コロニアル建築の特徴に着目したものもあって建物の記憶を感じさせるとともに、新たな物語を語りだし、新鮮な旋律が聞こえてくるような印象を受けました。自由テーマの作品は、はっとさせられたり、笑みがこぼれたり作者たちの多感さを感じさせる個性豊かな作品群となっています。

さて、今回の企画は満100歳の会館と高校生“画家”の初めてのマッチングであり、記念すべき誕生月の桐生倶楽部の姿を留めてほしいという点にありました。そして、その作品を社員と一般市民の方にご鑑賞いただくということでした。この目的は、Web 展覧会ではほぼ実現されたと考えております。今後タブローの制作に取り掛かるとのお話であり、どのような作品に結実するのか楽しみです。リアルな絵画展の実現へ歩み出していただけそうです。

最後になりましたが、桐高・桐女の両校校長先生、原澤先生と生徒さん、本企画に賛同いただいた森壽作理事長をはじめとする役員の方々、Web 展覧会と会報誌特集号の編集をご快諾し実現していただくことになった会報委員長の坪井良廣さん（副理事長）と同委員の桑原志郎さんに深く感謝を申し上げます。原澤先生をご紹介いただいたのは桐生高校時代の恩師木本富雄先生でした。桐高の同窓会館の部屋で木本先生に本企画を説明しましたら、携帯ですぐに原澤先生を呼んでいただき、あとはとんとん拍子にことが進みました。ありがとうございました。（村田勝俊 記）

編集後記

コロナ禍の中での対応として2階大広間での開催に代わり Web での絵画展となりましたが、皆様にご覧いただく機会を設けることができました。それもこれも年末の寒い中にも関わらず、生徒さんたちが各々選ん

一般社団法人	桐生倶楽部	特別号
2020年	(令和2年)	8月発行
発行人	森 壽 作	
編集責任者	坪 井 良 廣	
監 修	村 田 勝 俊	
版下製作者	桑 原 志 郎	